

## 沖縄県知事選挙

# 玉城デニー候補が勝利

9月30日に投・開票された沖縄県知事選挙で、翁長知事の遺志をついだ「オール沖縄」の玉城デニー候補が過去最多得票（39万6632票）を得て、政権丸抱えで沖縄県民の民意を押しつぶそうとした相手候補を8万票余りの大差で破りました。「辺野古に基地を造らせない」という県民の確固たる選択を安倍政権に突き付けました。

## なくせじん肺北海道キャラバン たたかいの前進の中でスタート 3つの訴訟の弁護団長があいさつ

10月1日、第29回（2018年）なくせじん肺北海道キャラバンの出発集会が開かれ、新・北海道石炭じん肺訴訟の伊藤誠一弁護団長、北海道建設アスベスト訴訟の藤本明弁護団長、北海道トンネルじん肺根絶訴訟の川村俊紀弁護団長からあいさつを受けたあと、「なくせじん肺北海道会議」の総会で1年間のとりくみの経過と方針を確認しました。

今年のキャラバンは、9月20日に「住石訴訟」の和解、同じ日に大阪高裁での建設アスベスト訴訟判決（国に10連勝・企業責任も）、7月にトンネルじん肺根絶第5陣の和解と、たたかいが前進する中でとりくまれます。伊藤団長は「じん肺のたたかいは『あやまれ』が前提であり、和解の翌日に上京した原告の代表に住石の役員が謝罪した」と報告。藤本団長は「札幌での1陣・2陣の勝利判決と『基金』創設をめざす」と決意を述べ、川村団長は「第6陣の提訴を準備しており、1年以内の解決をめざす」と報告しました。

北海道会議の総会では、事務局長の田中貴文弁護士が「三菱重工長崎造船じん肺訴訟や三井金属神岡鉱山じん肺訴訟では、被告企業が管理区分決定を争ってきている」と全国のたたかいについて報告し、じん肺をめぐる諸課題の解決、じん肺患者の権利救済、じん肺根絶をめざして引き続きたたかいを強めようと訴えました。

## トンネル工事での8時間労働などを道庁に要請

出発集会のあと代表は、道発注のトンネル建設工事での8時間労働の実現、アスベスト対策の強化などについて道庁に要請しました。道庁側は経済部・建設部・環境生活部の担当主幹が対応し、「現在施工中の美唄トンネルでは2交代、10時間拘束、実働8時間となっている」「道の管理する建物についてはアスベスト台帳を作成している」「民間のアスベスト使用建物の事前調査や除去費用の補助金制度は道内では4市でつくられている」などの説明がありました。これに対して「週40時間労働となっているのか」「レベル1のアスベストは『囲い込み』では大規模な地震などにより飛散する危険がある」「他県（埼玉・山梨など）のように道としても補助金制度を検討してもらいたい」などの意見を述べました。